

## \*\*\* 小学校避難所に200名を超える人たちが避難しました \*\*\*

台風19号の規模は「大型で非常に強い」、「狩野川台風」に匹敵」と云われ、10月12日(土)、18時頃、伊豆半島に上陸、神奈川、東京、千葉、茨城、東北地方へと進み、多大な被害は今も残されています。

12日7時過ぎ、市内に「避難準備・高齢者等避難開始」が発令され、「金田小学校に避難所が開設・水、食料などは各自ご持参ください」と伝えられました。

自治会では、寺田縄ホットラインを通して組長さん経由で皆様のもとへ、民生委員からは担当の方々への伝達がなされました。

新聞の朝刊には「関東地方に上陸する見込み」、「関東・東海を中心に、広い範囲で記録的な大雨や暴風雨となる恐れがある」と報じられました。その後、台風の進路予報や規模、エリアメールの着信が続きました。

11時前、自治会長が到着した時、小学校体育館にはすでに避難された方々がおいでになりました。その後も、家族で避難、自家用車での避難、近隣の人の助けを借りて車や徒歩での避難、避難した方々の総数は、200名を超えました。これまでにない数です。「家から見た鈴川が一杯で氾濫が心配だった」、「台風情報、続くエリアメールに『今度は危ないぞ』と感じた」避難した動機です。

13時には平塚全域に「避難勧告」、神奈川県西部に「大雨特別警報」が15:30に発せられ、「数十年に一度のこれまでに経験をしたことのない大雨・最大級の警戒を・命を守るために最善を尽くせ」と、危機的な状況にあることが伝えられ、住民に不安と緊張がよぎりました。

台風の上陸・通過後、箱根地域に1000mmを超える大雨、関東地方や東北地方の諸河川に堤防の決壊、家屋の浸水、土砂崩れなどに加え、避難の途上車内で亡くなった方、多くの尊い命が失われるという深刻な被害を残しました。

平塚は、台風が過ぎ去り、「避難勧告・指示等の解除、金田小学校の避難所が閉鎖」が出されたのが13日(日)の午前6時を過ぎていました。大きな被害を受けることなく、安堵しました。

\*\*\*\*\*

「千曲川流域で浸水した地域」新聞報道より (地域住民の結びつきの強さが伝わります)

- ・ 住民らが互いに声を掛け合って避難した。
- ・ 水害が起きそうなときは避難所へ連れて行く。そんなルールがこの地区にはあった。
- ・ 避難所へ来ていない人に電話を掛け、自宅に留まっている人には「とにかく2階へ」と促した。
- ・ 足腰の弱い高齢者ごとに担当を決めて連れてゆく仕組みが生きた。「日頃から仲良くしておいてね」と頭を下げて回ったという。

● 今回の体験、避難所等 お気付きを自治会役員、プロモートにお伝えください ●

(寺田縄自治会長 久光陽一、防災会代表 片山興大)

